

# さい 議会だより



小学校生活のスタートに胸がわくわく（4月7日 佐井小学校入学式）

## 3月定例会の主な内容

- ☆28年度の日玉事業……………3ページ
- ☆新年度期待する事業を村長に問う……………6～7ページ
- ☆一般質問に2名登壇……………8～11ページ
- ☆「空き家対策」「オフサイトセンター」追跡質問 ……12ページ
- ☆お元気ですか「83歳の畑と漬物の先生」……………16ページ

平成28年第1回定例会は、3月11日から16日までの6日間の会期で行われました。村長から、補正予算案6件、当初予算案6件、条例案8件、同意3件、その他4件の計27件。議員から条例案1件、その他1件の計2件が提出され、それぞれ原案どおり決しました。

# 平成28年度予算 前年度比6.4%の減 総額36億8838万円を可決

## 6会計の内訳

○一般会計	25億5678万円	(前年度比△2億4393万円)
○簡易水道事業特別会計	7956万円	(前年度比 △4848万円)
○下水道事業特別会計	1億8642万円	(前年度比 28万円)
○国民健康保険特別会計	4億9876万円	(前年度比 △556万円)
○介護保険特別会計	3億4279万円	(前年度比 4631万円)
○後期高齢者医療特別会計	2407万円	(前年度比 58万円)
合計	36億8838万円	(前年度比△2億5080万円)

### 議員提出議案

○佐井村議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

人事院勧告及び青森県人事委員会勧告に基づき、議員の期末手当の支給率を5%引き上げる。また厳しい財政状況であり、経費の縮減を図るため、28年度においても引き続き、6月、12月の期末手当を5%削減する。

### 審議した主な議案

○佐井村特別職の職員の給料等に関する条例の一部改正

人事院勧告及び青森県人事委員会勧告に基づき、村長の期末手当の支給率を5%引き上げる。また、厳しい財政事情から、28年度においても引き続き、村長の給料を月30%、6月、12月の期末手当を5%削減する。

○教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例を廃止する

条例附則第2項の規定によりなおその効力を有するものとされる旧教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正

人事院勧告及び青森県人事委員会勧告に基づき、教育長の期末手当の支給率を5%引き上げる。また厳しい財政事情から、28年度においても引き続き、教育長の給料を月20%、6月、12月の期末手当を3%削減する。

○職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告及び青森県人事委員会勧告に基づき、県が実施する方針に沿い、職員の給与の引き上げをする。

○職員の給与の特例に関する条例の一部改正

厳しい財政事情から、28年度においても引き続き、職員の給料を月2%、6月、12月の期

末・勤勉手当を3%削減する。

○佐井村公の施設に係る指定管理者の指定について

2施設の指定期間が平成28年3月31日で満了となるため、新たに指定する。

- 矢越地区生活改善センター 矢越地区会 会長 舘脇 敏昭
- 原田地区生活改善センター 原田地区会 総代 木部 久夫

指定期間：平成28年4月1日から平成31年3月31日まで

# 28年度の主な事業

## 総務

新 は新規事業

### ・漁師縁組事業 新 1509万円

漁業の担い手となる人材の確保と育成を目的に、村外から漁業を営む意思のある方を募集し、3年間の研修や支援金を給付する。

### ・新しい販路開拓 733万円

活締め神経抜き鮮魚の新規販路の開拓と、新商品の開発を図る。

### ・アルサス販わい創出 502万円

アルサスを核とした周辺の販わいの創出を図るもので、アルサス周辺の販わい創出事業検討委員会と協議しながら事業化する。

## 民生

### ・出産祝金支給(第3子以降) 新 60万円

第3子以降の子どもについて、受給資格を満たす方に出生時20万円の祝金を支給。

### ・高齢者生活福祉センター改修 5597万円

老朽化による高圧受変電設備(キュービクル)やセンター内の改修。

## 衛生

### がん検診精密検査費用助成 新 50万円

村のがん検診を受け、要精検となった方の再検査の費用を助成。

## 商工

### 願掛け公園野営場改修 5440万円

ケビンハウスなどの老朽化による改修工事。

## 農林

### ・牛滝地区簡易水道施設整備 400万円

### ・牛滝地区漁業集落排水施設整備 600万円

両施設の老朽化による調査設計。(県補助金)

## 消防

### 小型動力ポンプ付積載車整備 3121万円

磯谷地区、福浦地区の2台を更新。

## 教育

### ・佐井中学校屋外運動場改修 新 6524万円

陸上トラックや野球場などを改修。

### ・佐井中学校校舎改修 新 135万円

校舎を調査し、概略設計を委託。

### ・三上剛太郎生家維持補修 新 195万円

外壁の塗装など。

同意案件 3件を全会一致で同意

申請  
同意

特定非営利活動法人「日本で最も美しい村」連合入会申請

上記連合の活動目的に賛同し、連合規約などを確認の上、入会申請をすることについて、同意しました。(関連記事：6 ページ)



熊谷めぐみさん  
(大佐井)

人権擁護委員の東出竹子氏の任期が、平成28年6月30日付で満了するため、新たな人権擁護委員の候補者として熊谷めぐみ氏を推薦することに、同意しました。

後  
推  
薦

人権擁護委員の候補者  
熊谷めぐみさん



洪田昌平さん  
(古佐井)

固定資産評価審査委員洪田昌平氏の任期が、平成28年3月23日で満了するため、引き続き同氏を固定資産評価審査委員に任命することに、同意しました。

再  
任  
意  
同

固定資産評価審査委員  
洪田昌平さん

27年度 3月補正予算を可決

会 計		補 正 前	補 正 額	計
		31 億 8365 万円	6499 万円	32 億 4864 万円
一 般 会 計		主 な 内 容	・情報セキュリティネットワーク強靱化のための委託料	2236 万円
			・年金生活者等支援臨時福祉給付金補助金	1500 万円
			・佐井村保育所への運営委託料	104 万円
			・奨学金貸付金の減額	△ 166 万円
特 別 会 計	簡易水道事業	1 億 2961 万円	△3 万円	1 億 2958 万円
	下水道事業	1 億 8928 万円	3 万円	1 億 8931 万円
	国民健康保険	5 億 1754 万円	333 万円	5 億 2087 万円
	介護保険	3 億 2764 万円	△2435 万円	3 億 329 万円
	後期高齢者医療	2349 万円	△18 万円	2331 万円

質疑とは、村長から提案された議案に対し、疑問や不明な点を問う発言をいいます。

# 28年度予算 人口減少対策に 可能な限りの施策を

## へ村長提案理由から

第四次長期総合計画・後期実施計画の策定により、必要な行政サービスの安定的な供給と将来に向けた価値ある投資、そして人口減少の克服に向けた取り組みの充実など、積極果敢に展開し、赤十字の里を提唱しつつ「小さくともキラリと光る村」づくりを目指していく。

### 竹内典和議員

国は地方創生に動きを強めており、更なる地方の自立が求められている。村は、第一に人口減少対策という大きな課題に取り組みなければならない。しかし、来年度の予算案には、一部水産業関係の施策があるものの、全体的な若者の定住対策などの具体的な施策が乏しい。意気込み積極性が感じられない。村の長期的な展望に立ち、必要な施策にスピード感を持って実行すべきではないか。

**最大の課題は人口減少問題**

### 竹内典和議員

最大の課題は、人口減少問題である。村がこれ以上衰退しないうちに、産業を活性化し、成長発展を目指すチャンスでもある。可能な限り施策を考えていくべきだと考えるが。

**今後早めに施策を展開したい**

### 村長

定住対策として、まず産業基盤の安定・充実を進める。そして就労の場所や、子育てしやすい環境のための手厚い財政的支援な

**人口対策は漁師縁組事業**

### 村長

28年度予算には、さまざまな地方創生総合戦略の取り組みを計上してい



保育、医療、就労など子育てしやすい環境に期待（4月18日乳幼児健診）

# 日本で最も美しい村連合加盟に期待

◇総括審査では、各課審査で予算・条例等の議案について各課長から説明を受け、その内容に関して総括的に審議をします。

## 川畑委員

村長の政策の一つである、日本で最も美しい村連合への加盟について、連合規約の内容は。

5年間の活動が  
精査される

## 総合戦略課長

主な内容は、入会にあたり会費が定められる。役員は、理事5名以上16名以内、監事が1名以上3名以内。理事及び監事は総会において選出することとし、任期は2年、再任は妨げない。連合の事務局は東京都通常総会は、毎年1回開催され、5年間の活動を十分精査し、会員として継続できるかどうかを判断するといったものである。

連合加盟に対する  
村長の思いは

## 川畑委員

この事業を通じて、あおり環や総合戦略事業と連動させ、村を活性化させるということは、非常に良いことである。連合加盟に対する村長の思いは。

加盟を進めること  
が村づくりの基本

## 村長

連合加盟への目的を定め、地域が一致協力して進めて行くことが、村づくりの基本となると考えている。住民には、19年に制定された、むらづくり基本条例の基本理念を意識してもらいたい。

## 日本で最も美しい村連合の目的

景観や環境を守りこれらを活用することで、地域的、観光的付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与する。

素晴らしい地域資源をもちながら過疎にある美しい町や村が、日本で最も美しい村を宣言することで自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行うこと。

住民によるまちづくり活動を展開することで、将来の活性化を図り、地域の自立を促進する。

## 5年間で取り組むべきこと

※5年に1回の会議で、次の事項についての活動の見直しがされ、継続できるかどうか判断される。

- ・日本で最も美しい村の経済的価値を高め、社会的発展を促す。
- ・交流人口の増加。
- ・地域経済、地域資源の存続や発展のための事業を行う。
- ・テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどによる情報発信を行う。

# 追いやられる地域医療に注力を

**坂井委員**

今までは、主に県に対して医師招へい活動を展開してきたと思うが、今後は、保険医協会を窓口にした医師確保の活動をしていくのか。

**開業医を呼び込みながら県にも要望**

**村長**

県の医療再編計画に基づき、佐井診療所も医師引き上げとなり、大間病院の充実という流れで現在に至っている。

そのような状況の中で、昨年、青森県保険医協会主催による無医村解消に向けたシンポジウムを開催することができた。今後も保険医協会と協力し、開業医を呼び込みたい。また、それとは別に、これまで行ってきた県に対する基幹病院充実のための医師確保は要望していく。

**県と不和が生じないか**

**坂井委員**

シンポジウム開催後、佐井村に関心を持ったお医者さんが何名かいるというところで、期待も大いにある。しかし、県と不和が生じることはないか。

**その心配はない**

**村長**

私は一切その心配はないと考える。県の医療再編計画は、大間病院・むつ病院の医師体制の充実を見据えたものである。

村が行う医師招へい活動は、住民の健康と福祉を守る見地からも、移住対策・定住対策に繋げる意味でも行動していく。

**医師確保とは開業医のことか**

**坂井委員**

医師確保ということとは、あくまでも民間の開業医を呼び込むということか。

**双方に全力を傾ける**

**村長**

県の医師確保対策と歩調を合わせながら、開業医の確保の双方に全力を尽くして行きたい。

**住民に不安を与えないよう努力を**

**坂井委員**

これまでの医師招へい活動は、佐井診療所復活のため展開してきたと、一筋の望みを持っていた。

牛滝診療所も、むつ病院からの医師の派遣が困難になり、大間病院で対応してもらえないことにはなつたが、どんな地域医療や、へき地医療が追いやられていくように感じる。下北全体で考え、大きな力で医師確保などの対策が必要と考える。今後も地域医療に対して、住民に不安を与えないように頑張ってもらいたい。



青森県保険医協会会長 大竹進氏 (右)

シンポジウムにはたくさんの村民や関係者が参加した



竹内典和議員

# 人材育成を幅広く 村の未来のため早急に行動を 村長―学校教育のより一層の充実を推進する

## 竹内典和議員

現在、村のあらゆる面で人材不足を感じている。村長の公約にある人材育成とは、どのようなことか。また実行しているのか。

**教育の過程が  
育成の一部と認識**

## 村長

教育の過程が育成の一部であると認識し、学校教育の充実を推進し、将来の人材を育成することを考えている。また、保護者の財政的支援のため、奨学金の貸付などを進めている。

**優秀な人材が不足  
していると感じる**

## 竹内典和議員

学校教育も確かに人材育成の一環だと思うが、私の思い描く人材育成とは大分違うようである。今、

村内の基幹産業、水産業関係、林業、商工観光業、建設業、あるいは政治など、多面により良い方向に牽引して行くような優秀な人材が不足していると感じるが。

**基本は学校教育の  
充実にある**

## 村長

さまざまな人材育成があると思うが、基本はやはり学校教育の充実にある。掲げた公約に村民は期待している。

## 竹内典和議員

今まで行ってきた学校教育が人材育成なら、わざわざ選挙公約に掲げる必要はないのでは。村民は、公約に掲げた人材育成に期待を持っているのでは。

**学校教育の充実を  
考えている**

## 村長

私は、学校教育の、より一層の充実を考えている。

**村民有志による  
「さいっこ塾」**

## 竹内典和議員

将来を担う子どものために、村民有志による無償の「さいっこ塾」が行われているが、本来村が率先して取り組むべき施策ではないのか。

**民間の活力利用し  
行政が支援する**

## 村長

地域の子どもを地域の人々が支える。この精神は、佐井村むらづくり基本条例の根幹をなす部分であり、とても頼もしい限りだ。

民間の活力を大いに利用し、側面から行政が支援すればいいと考える。

**村民は教育の遅れ  
に不安なのは**

## 竹内典和議員

塾に子どもを通わせるのは、村民が教育の遅れを感じ、子どもたちの将来を案じての行動だと思う。村として根本的な問題を解決すべきでは。

**塾の目的は家庭学  
習の定着である**

## 村長

全く議員の心配は当たらない。塾の目的は、楽しく学習する、学習意欲を出させる、初歩的なことを身につけるといふこと。学力が低いからということではない。あくまで、家庭学習の定着が目的である。

**育成に早急な対策  
必要と考えるが**

## 竹内典和議員

そういう趣旨なら良い。ただ父兄の中には、下北が県内でも最下位の教育レベルであることに不安を感じている人もいることに間違いはないと思う。将来の佐井村を担う人を早急に育てることが必要だと考えるが、村長の所信を伺う。

**役場職員の人材育  
成講じる**

## 村長

地域のリーダーの育成は急務だと思っている。中でも役場職員の人材育成を講じ、政策形成能力などを養ってもらい、佐井村のリーダーとして育つよう対策していきたい。



勉強に集中「さいっこ塾」

# 北海道新幹線新青森～新函館北斗間開業

## 観光客誘客のチャンスに村はどう動く

### 村長 ー 下北全体で連携して取り組む

**竹内典和議員**

平成28年2月に、下北地域活性化検討会で「青森～佐井航路を中心とした下北地域活性化に向けた行動計画」が策定された。その計画によると、平成30年度までにシイラインの旅客運賃収入を1千万円の増加を目標とする。それにより、村の負担はどのくらい減るのか。

**村の負担の減少は微弱**

**村長**

村の負担の減少は、微弱なものである。

**赤字増でも航路を維持していくのか**

**竹内典和議員**

それだと更に赤字が増え、焼け石に水の状態になってしまう。村民に多大な負担をかけることになるが、それでも航路の維持を考えていくのか。

**今後踏み込んだ判断必要**

**村長**

財政事情の悪化や、道路網の整備など、費用対効果も考慮すると、今後踏み込んだ判断をしていかなければならない。今は新幹線効果に期待している。

**行動計画の4つの柱の内容は**

**竹内典和議員**

下北活性化に向けた行動計画の実現のために、次の4つの柱を設定しているが、その具体的な内容は、  
1、観光客誘致の促進  
2、地元利用者の利用促進  
3、二次交通対策  
4、広報、魅力度向上を通じたピーアールの促進

**内容は次のとおり**

**村長**

1、大手旅行代理店への営業活動に加え、各祭りなどのイベントと連携したツアー商品の開発。大函

丸との連携。フリーパス利用者の周遊促進など。  
2、県内の小中学校での利用促進、航路のピーアール。

3、着地型旅行商品の開発、周遊型商品を造成し、船の発着に接続する周遊バスや観光タクシーを利用した商品の開発を検討。

4、ホームページを改良し、情報の充実を図る。自治体の各種広報媒体を活用したピーアールの実施。北海道新幹線については、下北周遊ツアーと連携し、対応したい。

**計画はどれくらい進んでいるのか**

**竹内典和議員**

素晴らしい構想だが、検討するとか予定と答えている。実際はどれくらい計画が進んでいるのか。

**新年度から取り組む**

**総合戦略課長**

この計画は新年度から取り組むものである。

**当村の動きが鈍い大丈夫なのか**

**竹内典和議員**

3年の期間なので、早急に取りかかるべきだ。また、過去にも東北新幹線が八戸及び青森に来た際、同じような対策を取るようになっていた。3度も絵に描いた餅にならないようにすべきと思う。

道南または他市町村は、外国人誘客に向け必死に活動している。北海道新幹線開業は間もなくだが、当村の動きが鈍いと感じる。大丈夫なのか。

**村単独より下北全体で行動を起こす**

**村長**

村単独で誘客するより、下北全体で行動を起こすことでより効果があると考え、5市町村共同で取り組んでいるところである。また、下北観光協議会などと連携を取りながら、下北全体でピーアールをした

い。当村でも外国語パンフ

**最後のチャンス 村長の意気込みは**

**竹内典和議員**

観光立村を掲げ、産業の6次化を目指している村にとつては、最後のチャンスかもしれない。村長の意気込みを伺う。

**下北一丸となって取り組みたい**

**村長**

このチャンスが無にすることなく、下北一丸となつて取り組んでいきたい。観光関係団体と意見交換をする場を設け、意思統一して行きたい。



坂井文明議員

# 村長就任後2年が経過、公約は実行されたのか これまでの成果と今後の取り組みは 村長―最大限集中し職員一丸となって公約実現に取り組む

## 坂井議員

村長は2年前の村長選立候補にあたって、元気な佐井村をつくるために7つの約束と22項目の基本政策を公約している。

公約実現のためのこれまでの取り組みと、今後後半の任期で取り組む具体策は何か。

### 第四次長期総合計画推進が公約実現

## 村長

私が掲げている政策は、第四次佐井村長期総合計画、さらには佐井村まち・ひと・しごと創生総合戦略に網羅されている。それらを着実に推進することが、公約の実現に繋がると思っている。

27年度においては、プレミアム商品券発行事業、児童・生徒医療費助成、販

路の開拓事業、長崎大学水産学部との交流事業、佐井村特別番組制作事業などに取り組んできた。また、水産振興基金を活用した水産振興事業にも努めてきた。

今後2年間の取り組みとしては、  
 一、佐井村漁業創生プロジェクト事業  
 一、空き家・定住対策  
 一、若い世代の子育て支援  
 一、三上剛太郎生誕祭

など、佐井村が抱える人口減少の克服と、地域課題の解決に向けた事業を加速させて取り組んでいきたい。

村民に寄り添った  
 きめ細かな対策を

## 坂井議員

健康づくりのためのイベントやフォーラム、日本

一美しい村連合への加盟申請や、漁業創生プロジェクト事業など、今後の成果が期待される取り組みは評価すべきと思う。その一方で、村内の経済状況は依然として厳しい。雇用不安、生活不安を抱えている村民も多い。そういった村民にも寄り添った、きめ細かな雇用対策や地域経済の底上げ対策にも取り組むべきではないか。

### 意見交換し 政策進めたい

## 村長

建設業など過去と比較調査し、関係者と意見交換をする中で、村でできる政策を進めていきたい。

地方創生メニューがないのか

## 坂井議員

地方創生のメニューの中には、地域経済の底上げに繋がるようなものはないのか。

地域経済に直接繋がるメニューがない

## 総合戦略課長

地域経済に直接つながるような公共工事などのメニューはない。



「佐井村の食」魅力発信事業（右：鉄人坂井シェフ）

公約にある雇用対策への取り組みは

坂井議員

公約にある雇用対策の、①トップセールスにより企業の誘致と環境配慮型産業の誘致促進

②県保有の進出希望情報の有効利用と誘致支援策の積極活用

③地場産業振興による雇用の受け皿づくり

進んでいない

村長

県内の誘致企業は若干増えつつあるが、郡部への進出までは至っていない状況である。県にも情報提供はお願いしているが、なかなか情報は入ってこない。小型風力発電進出の動きもあるので、村としても関与していければと思っている。現時点で、これ以上の雇用対策への取り組みについて答えることはできない。

嫁対策の状況は

坂井議員

嫁対策についても公約しているが、その状況は

触れあいの場を創出する計画がある

村長

村内ではなかなか出会いの場が少ないことから、県の出会いサポートセンターへの会員登録を募っている。それとは別に、28年度、佐井村の食と絡めた触れあいの場を創出できるとの計画がある。

一流シェフを招いての食のイベント

総合戦略課長

内容としては、今年6月に、以前交流のあったフランス料理の一流シェフを招いての食のイベントを開催する。それを活用し、出会いの場を創出する計画に取り組みたい。

残り2年間の任期で取り組む決意は

坂井議員

地元の方が結婚して、子どもが生まれ、豊かな生活ができることが、人口減少問題の理想的な解決策だと思ふ。残り2年間の任期中に取り組む決意は。

公約違反と言わないよう取り組む

村長

嫁対策、雇用対策とも公約違反だと言われないうちに、残りの2年間に集中して取り組みたい。

行政懇談会などは開催したか

坂井議員

村長の政策に「積極的に地域に Outreach、村民の声を大事にする。」とあるが、行政懇談会など行ったか。

今後村長を含めた出前講座進めたい

参事・総務課長

今年の2月にゴミの出し方について、県の出会いサポートセンターについて説明会を行った。今後は村長を含め、出前講座のような形で進めたい。

きらりと光る村づくりとは何か

坂井議員

地域住民とのコミュニケーションは必要である。「小さくともきらりと光る村づくり」とは具体的にどういうことか。

村民が目的を持ち一致結束すること

村長

自分たちの地域は自分たちで守り、盛り立てて行こうという精神をそれぞれ持っていたら、一つの目的をもって情報を共有し、一致結束して取り組んでいくという姿を描いたものである。

公約は全てに成果を上げる覚悟で

坂井議員

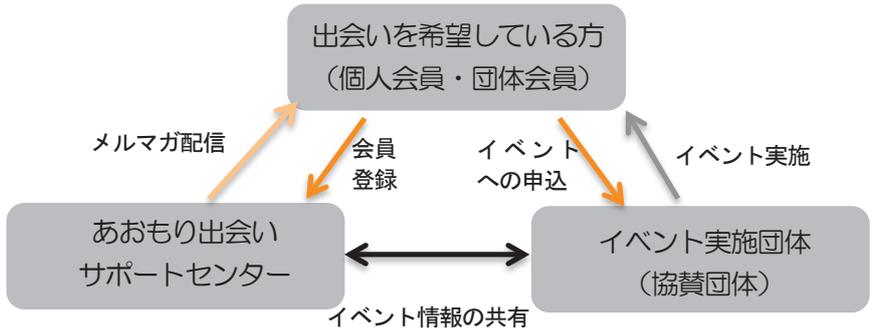
村民からすると、具体的な成果が見えなければ公約を果たしたという評価

最大限集中して公約実現に取り組む

村長

多くの公約を掲げ、難しい部分もあるが、限られた4年間で最大限集中し、職員一丸となって公約実現に取り組む。

人生を共に歩むパートナーとの出会いの機会を広げる  
あおもり出会いサポートセンターとは  
少子化の流れを変え、活力ある青森県をつくるため、NPO法人フラットフォーム青森が青森県の委託を受け、素敵な出会いを応援するために設置した組織



◆追跡質問で、過去に質問した件はその後どうなったのか経過を問います。

空き家対策（27年9月定例会）

# 空き家調査進んでいるか

川畑議員

今年度中に調査し、できれば来年度条例制定をしたいとの答弁だったが、現在の状況は。

交付金を利用した  
住宅管理を検討中

村長

当初は、町内会や地区会の協力を仰ぎ、空き家の調査をしたいと考えていた。

しかし、その後、地方創生の加速型交付金の話が出たため、この交付金を利用できないかということになった。そのため現在は、地籍図のデータベース化を含めた適正な住宅管理を進めているところである。採択されるかどうかは分からないが、移住促進の上でも適正管理条例を確実に実施したい。

各地区や町内会の  
協力はどうなった

川畑議員

現在申請中ということでは、各地区、町内会の協力は受けていないということか。

状況が変わり  
協力は一旦停止

総合戦略課長

12月の地区懇談会の際に、各地区町内会の代表に空き家の調査について協力をお願いをした。しかしその後、状況が変わったため、協力については一旦停止している。

採択されてから事業に着手するのにか

川畑議員

国へ申請をして採択された後、初めてこの事業に調査を含めて着手するということか。※

そのように考えている

総合戦略課長

そのように考えている。

※3月29日付け県からの通知により、事業は採択されませんでした。

オフサイトセンター誘致（27年12月質問）

# 候補地を調査したか

宮川議員

オフサイトセンター誘致に関して、その後の新しい情報は。

県は候補地の選定  
調査を進めている

村長

12月定例会終了後、県に出向いた時点では、国のガイドラインに沿って、立地町に配慮し、佐井村、風間浦からの要望を踏まえ、候補地の調査を行うということであった。そして今年度中の候補地の選定を目指し、調査を進めている状況ということである。

村は候補地の調査  
など行っているか

宮川議員

村は、候補地の地権者や面積などの調査を行っているのか。

県が調査をするため、必要はない

村長

県が調査をして、候補地を選定するため、村が候補を決定する必要はなく、前回提出した要望書から進展はない。

県と意思疎通しながら活動したい

総合戦略課長

補足すると、今までオフサイトセンターを立地町以外に設置した実例がないため、立地町である大間町に配慮し、候補地を選定するという県の見解のようである。

県が設置するものであるから、県と十分意思疎通しながら活動を展開して行きたい。

【オフサイトセンター（緊急事態応急対策拠点施設）とは】

原子力施設の緊急事態時において、事故が発生した敷地から離れた外部で現地の応急対策をとるための拠点施設のことです。原子力施設で緊急事態が発生した際には、国、都道府県、市町村及び事業者の防災対策関係者が集合して、「原子力災害合同対策協議会」を組織し、連携の取れた応急対策を講じていく拠点となります。

## 3月定例会 陳情書の審査結果

### 軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談のできる窓口などの設置を求める陳情

【陳情者】 軽度外傷性脳損傷仲間の会 代表 藤本 久美子

【審査結果】 採択

【付託委員会】 総務産業常任委員会

【陳情の趣旨】 国に対して、軽度外傷性脳損傷及び脳しんとうへの対応について、教育機関での周知徹底などの対策を講じるよう要望するもの

【採択の理由】 誰もが転倒や自転車事故、またはその他の日常活動中に受傷する可能性がある。さらに、脳しんとうを繰り返すと永久的な脳損傷を受ける可能性が高くなるし死に至る場合もある。この対応として、教育機関等での周知徹底や専門医による診断と適切な検査の実施、相談窓口の設置と重大事故の繰り返しの防止を図ることが必要であるため。

採 択

### 採択された意見書

国へ提出しました

### 未来の有権者のための模擬投票所設置に関する陳情

【陳情者】 Kids Voting Japan 代表 寒川 友貴

【議会運営委員会審査結果】 資料配布

【陳情の趣旨】 選挙権を持たない子どもや若者でも、実際の選挙で投票を体験することができる模擬投票体験スペースを選挙期間中、投票日に期日前投票所、投票所に設置することを求めるもの。

【資料配布の理由】 若年層の投票率の低さは懸念されることではあるが、この陳情は、選挙管理委員会への要望と解されるため。

資料配布



竹内修議長が青森県町村議会  
長会から自治功労章（平成28年2  
月23日表彰・議会議員11年以上）  
を受けられました。  
おめでとうございます。

ぎ  
か  
い  
の  
話  
題

## 総務産業常任委員会委員長報告

# 佐井村漁業協同組合 平成27年度決算



山口 捷夫委員長

去る2月29日に、佐井村漁業協同組合から平成27年度の決算状況等について説明を受けました。その内容について、要点のみ報告します。

坂井組合長、宮川総務部長から収益全体で4億5千614万6千円、費用合計で4億5千534万8千円、当期剰余金は719万8千円の黒字決算であり、昨年に引き続き黒字決算となったとの報告がありました。

その要因は、年明け早々にマダラとヤリイカの豊漁と、ウニが比較的高値で取引され、販売取り扱いや製氷・冷凍事業の実績が計画を上回ったものの、共済・加工・自営事業の収益減少が影響したものであります。現在、漁協は行政とともに「あおい環経済戦略ビジョン」の中で、わかめオーナー制度をはじめ、鮮魚の「活締め神経抜き」によるブランド化の取り組み、そして「佐井村地域創生総合戦略」の中で、漁師縁組による新規就業者の確保、漁業生産法人の設立による経営体制強化など、さまざまな事業を展開しています。

漁業は村の基幹産業であります。漁業者、漁協とも非常に厳しい経営が強いられています。行政におかれましては、今後とも漁業に対して適切な指導、助言をお願いします。

## 議会改革特別委員会委員長報告

# 魅力ある議会づくりを住民とともに



竹内 典和委員長

本特別委員会は、昨年4回の委員会を開催し、特に「議員報酬」について議論を重ねてきました。議員報酬については、行政改革の一環として、引き続き期末手当を5パーセント削減し、加算率も設けないという判断にたちました。今後も議員の報酬や定数については、セットにして協議を進めて行きたいと思えます。

これからの課題として、各種職業をもちながらも、意欲のある村民が、誰でも議員に立候補できるように、どのような方法が良いのか、魅力ある議会づくりに向け、住民と一緒に考えて考え創り出していくもの一つの手段と思

本特別委員会は、昨年4回の委員会を開催し、特に「議員報酬」について議論を重ねてきました。議員報酬については、行政改革の一環として、引き続き期末手当を5パーセント削減し、加算率も設けないという判断にたちました。今後も議員の報酬や定数については、セットにして協議を進めて行きたいと思えます。

本特別委員会は、昨年4回の委員会を開催し、特に「議員報酬」について議論を重ねてきました。議員報酬については、行政改革の一環として、引き続き期末手当を5パーセント削減し、加算率も設けないという判断にたちました。今後も議員の報酬や定数については、セットにして協議を進めて行きたいと思えます。

## 大間原子力発電所対策特別委員会委員長報告

# 大間原発の動向注視し活発に活動



川岸 一彦委員長

現在、大間原子力発電所の動向については、一昨年12月に新規制基準に適合しているかを確認する審査が、原子力規制委員会に申請されています。これまでに7回の審査会合が開催されており、申請後2年を経過し、一日も早い審査結果が待たれるところです。原子力規制委員会からは、「世界で実例のない原発であることから、相当慎重に評価される。」という見解が示され、厳しい審査が続く可能性があります。

このようなことから、運転開始が未定であり、稼働が大幅に遅れることは、より一層地域経済が疲弊し、雇用や地元経済活動の影響がますます深刻となります。しかし、一方では、時間が費やされようが、安全が確保できる発電所づくりが最も重要であると考えております。

当特別委員会は、平成27年中に5回特別委員会を開催し、電源開発からの工事の概要、新規制基準適合性審査の対応状況などの説明を受けております。また、昨年10月には福井県の関西電力「美浜原子力発電所」を視察し、審査中の安全審査において新規制基準をクリアするとともに、再稼働に向けて着々と準備が進められている状況を確認しました。

大間原子力発電所は、約1年後には「規制委員会」による審査の結論が出るかと思いますが、村には村独自の避難計画などの策定について、その準備を進めるなど、早めの対応をお願いいたします。

本委員会としても、原発を巡る動向を注視しながら、常に新しい情報を入手し、活動を活性化させていきたいと考えています。

## 「政策決定議会にあり～議会・議員の役割」講演会

3月17日役場議事堂



青森公立大学教授 天野 巡一 講師

佐井村役場議場において、大間町議会・風間浦村議会も多数参加し、昨年に引き続き天野教授を招いての講演会を開催しました。

議会は議決機関であり、政策の決定は議会にあることや、議員・議会のあり方について約2時間にわたり熱く講演して頂きました。

今後も議会活性化に向け、議会としてさまざまな取り組みをしていきたいと思っております。

# 元気！で働くお年寄りを紹介



五十嵐 コメさん（83歳） 原田  
「畑と漬物の先生」

**今**まで病気や、けがをしなかったことはなく、もう何年も病院にかかったことはないという五十嵐コメさんは、この日も親戚のウニむきのお手伝いをしていました。  
毎日3時に起きて、ウニむきや田んぼのお手伝いをしながら、自分の畑でもたくさん野菜を育てています。  
「今は、ちようどえんどう豆の種を蒔いて、芽が出たところ。」と教えてくれました。

**楽**しみは、9月から3月まで「お達者クラブ」に通うことだそうです。「体のために、普段家ではあまり食べないお肉などをそこで1週間に一度頂いている。」と話してくれました。  
公民館活動にも積極的に参加し、けんちん汁やクジラ汁の郷土料理を教えたりしています。料理も野菜も「作る」ことが好きな五十嵐さん。

**畑**で採れた野菜でつくる漬物は、近所の人にあげたり、お寺参りに持って行くと大好評で、特にたくあんは漬物の先生と呼ばれているほどだそうです。  
これからも、お茶飲みなどを楽しみながら、元気で仕事をしたいと話してくれました。



4月から8月までウニむきをお手伝い



家の裏の広い畑にはさまざまな野菜

### ◇編集後記

28年度予算の目玉は、（日本で最も美しい村）連合への加盟だろう。連合のテーマは、「それぞれの地域が、小さくとも輝くオンリーワンに誇りを持つ」だ。全国60の町村や地域が加盟している。人口1万人以下で、美しい景観や素晴らしい地域資源があり、資源を生かした地域活動があるなどの条件を満たす地域や自治体が加盟できる。夏までに同連合による現地調査等審査を受け、今秋までに可否が決まる。期待しよう。（竹内典和）

### 広報編集委員

- 委員長 田中 岩男
- 副委員長 山口 捷夫
- 委員 宮川 尚
- 川内 典和
- 竹内 勲夫